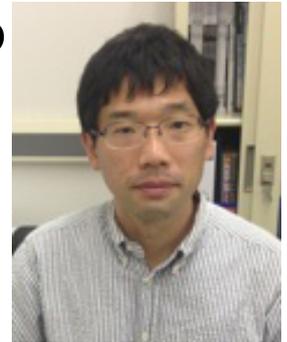


NCGG SEMINAR

T細胞の分化と免疫応答における コラーゲンペプチドの効果

錦見 昭彦先生

北里大学理学部生物科学科 准教授



平成30年3月9日(金) 16:00~17:00

第1研究棟2階 ~~大会議室~~ 小会議室

コラーゲンならびにその分解産物であるコラーゲンペプチドは、食品サプリメントとして広く使用され、皮膚の状態の改善、関節痛の軽減、創傷治癒の促進などの効果が示されている。コラーゲンは、翻訳後修飾により多数のプロリン残基が水酸化されており、消化酵素や体内のタンパク質分解酵素で完全には分解されないことが知られている。実際に、コラーゲンペプチド摂取後に、プロリン-水酸化プロリンなど、水酸化プロリン含有オリゴペプチドの血中濃度が上昇すること、これらオリゴペプチドが繊維芽細胞の増殖促進などの生理活性を有することが明らかになっている。また、コラーゲンペプチド摂取による免疫スコアの改善、炎症部位での水酸化プロリン含有オリゴペプチドの増加など、コラーゲンに由来するペプチドが、免疫機能や炎症制御に関与している可能性が示唆されている。本セミナーでは、私たちが最近見出した、CD4陽性T細胞の分化や生体の免疫応答に対するコラーゲンペプチドの効果を中心に、コラーゲンペプチドの生理機能について紹介する。

[参考文献]

Nishikimi A. et al., Collagen-derived peptides modulate CD4⁺ T-cell differentiation and suppress allergic responses in mice. **Immun. Inflamm. Dis.** in press, 2018.

連絡先：老化機構研究部 丸山
(5002)